



# 全国私立大学 FD連携フォーラム

News Letter No.19

## CONTENTS

P.2	ご挨拶
P.3	加盟校一覧/ 2023年度取組概要
P.4-5	2023年度前半期活動報告 (総会・シンポジウム)
P.6-7	2023年度後半期活動報告 (懇談会企画/幹事校・会員校ミーティング)
P.8	入会のご案内/実践的FDプログラムのご案内



▶ 代表幹事校・地域担当幹事校【西日本担当】 龍谷大学

## 今こそJPFFの意義を再確認する —代表幹事校就任のご挨拶—

龍谷大学 学修支援・教育開発センター長  
出羽 孝行



龍谷大学は1639年に西本願寺の学寮として発足したのが始まりで、今年で創立385年を迎えます。現在では10の学部、1つの短期大学部、10の大学院研究科によって構成される学生数約2万1千人を擁する総合大学になっています。私は2023年4月より本学の教育改善活動を支援する組織である学修支援・教育開発センター長に就任いたしました。

当センターの業務としては、前号の「ご挨拶」にて前任の藤田和弘先生が紹介されているように、各種の教育改善活動支援事業や教育活動交流・研修事業を行っております。JPFFには2011年より会員校として加盟して以来、本学単独では実施するのが困難な規模・内容のシンポジウムや、他大学の皆様との交流を通じて本学のFD活動や学生支援にも大いに役立てて参りました。

私事ながら恐縮ですが、私が大学の専任教員になった2007年には大学院でFDが義務化され、翌2008年にはそれが学部にも拡大されています。その年にJPFFが設立され、2017年にはSDも義務化されました。もはや大学で働く人々にとってFD・SDの実施は当然のこととなっています。本稿を執筆するにあたり改めてJPFFのこれまでの取組みを学ぶ

べく過去のニューズレターを拝見していたところ、第6号で法政大学教育開発支援機構FD推進センター長（当時）の児美川孝一郎先生が、大学教員らによる「『ボトムアップ』タイプのFD活動が多種多様に生成」することへの期待を託されている文言を見つけ、はっとさせられました。大学における教育改善は主体的に行うべきであるはずが、いつの間にか私自身の中に「FD＝義務」との印象が脳裏の片隅にすり込まれていることに気づかされました。

はからずも新しい学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」が重視されています。小・中・高等学校ではいかに教えるかよりも、いかに学ぶかという、学習者を主語とする教育が実践されています。そうした学習者が大学へ入学した後の学びを支援するために、私たち自身が知恵を絞りながら絶えず新しい取組みを行っていくことが必要です。その意味でも、JPFFの意義は、今後ますます重要になってくると思われまふ。学校の現場で新しい学びが実現していく今、JPFFの代表幹事校として関わることができる幸運に恵まれたことの意味を今一度、噛みしめながら精進して参りたいと思います。どうかよろしくお願い致します。



▶ 地域担当幹事校【東日本担当】 芝浦工業大学

## 拠点との連携のすすめ

芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター 教授  
榎原 暢久



皆さんは「教育関係共同利用拠点」をご存知でしょうか。大学の（教）職員の組織的な研修等の実施機関として文部科学省から認定を受けた拠点が、2023年10月現在で全国に14か所あります。本学・教育イノベーション推進センターは、理工学教育のモデル構築とその基本的な枠組みおよび教育手法を国内に浸透させる拠点として、2016年より「理工学教育共同利用拠点」に認定されています。

本拠点ではこれまでの8年間、「教育能力開発プログラム」、「研究能力開発プログラム」、「マネジメント能力開発プログラム」の3つの枠組みで、日本全国の教員・職員・非常勤講師・ポストドク・院生の方々を対象に、WS型研修を中心とした能力開発の機会を提供してきました。幸いなことに、2024年度以降もさらに3年間、拠点認定が継続されることになったので、各組織でFDや教学マネジメントを中心となって推進する方々への支援プログラムを充実させる予定です。

日本の大学に在籍する学生の8割近くが私立大学の学生で、多くの教職員がその教育研究に携わっている一方、これ

らの機関で、教職員の能力開発を専門に担うスタッフは多くありません。教職員の組織的な研修等の実施機関として認定されている「教育関係共同利用拠点」等と連携をとることで、今までなかった能力開発の機会を提供することができます。本学拠点でも、同じく拠点校である愛媛大学や、FDの専門家集団である日本高等教育開発協会と共催の形をとりながら、「ファカルティ・デベロッパー養成講座」や「カリキュラム・コーディネーター養成講座」といった研修を提供しています。これらは、カリキュラムの整合性整備や学修成果の可視化といったカリキュラムレベルのFDも、各機関でニーズが高まってきていることにこたえるものです。

私事になりますが、私は2023年より2年間、先述の拠点校が中心となって設立された「大学教育イノベーション日本(HEIJ)」の代表を務めることになりました。この機会に、各拠点校やHEIJがJPFFとの連携を強め、JPFF加盟校で教育研究に携わる教職員の方々の能力開発に寄与していければと考えています。

## 加盟校一覧

代表幹事校	龍谷大学		
地域担当幹事校	芝浦工業大学【東日本担当】	龍谷大学【西日本担当】	
会 員 校	関西大学	関西学院大学	國學院大學
	芝浦工業大学	創価大学	中央大学
	中部大学	同志社大学	法政大学
	明治大学	立教大学	立命館大学
	龍谷大学	早稲田大学	
	愛知大学	青山学院大学	学習院大学
	神奈川大学	関東学院大学	北里大学
	九州産業大学	京都産業大学	甲南大学
	神戸学院大学	国土館大学	上智大学
	専修大学	中京大学	帝京大学
	東京農業大学	東北学院大学	東洋大学
	南山大学	日本大学	福岡大学
	武庫川女子大学	名城大学	明星大学

50音順、全38大学（2024年3月現在）

## 2023年度 取組概要

### 2023年度 幹事会

日 時：2023年6月17日(土)12:00~13:00  
場 所：立教大学 池袋キャンパス 8号館

### 2023年度 総会・シンポジウム

日 時：2023年6月17日(土)13:00~16:40  
場 所：立教大学 池袋キャンパス 8号館  
シンポジウムはオンライン併用のハイブリッド開催

#### ◆2023年度シンポジウム

テーマ：「これまでのFDとこれからのFD  
ー2040年代を見据えた課題と展望ー」

#### ◆基調講演

大阪大学 国際共創大学院学位プログラム推進機構 教授  
佐藤 浩章 氏

#### ◆事例報告

##### ◆報告Ⅰ

中央大学 教育力研究開発機構・専任研究員/文学部特任助教  
澁川 幸加 氏

##### ◆報告Ⅱ

立命館大学 教育開発推進機構 教授 沖 裕貴 氏

#### ◆パネルディスカッション

大阪大学 国際共創大学院学位プログラム推進機構 教授  
佐藤 浩章 氏

中央大学 教育力研究開発機構・専任研究員/文学部特任助教  
澁川 幸加 氏  
立命館大学 教育開発推進機構 教授 沖 裕貴 氏  
立教大学 大学教育開発・支援センター長/経済学部 准教授  
小澤 康裕

### 2023年度 代表幹事校ミーティング

日 時：2023年10月12日(木)13:00~14:30  
形 式：オンライン

### 2023年度 幹事校・会員校ミーティング

日 時：2024年1月25日(木)13:00~14:00  
形 式：オンライン

### 2023年度 懇談会企画

日 時：2024年1月25日(木)14:00~16:00  
形 式：オンライン  
テーマA：教学IRの推進について  
B：探究学習について  
C：オンラインやICTを活用した授業について

### 2023年度 第2回幹事会

日 時：2024年2月21日(水)~2月29日(木)正午  
形 式：Eメールによる文書審議

## 総会・シンポジウムを振り返って

立教大学

大学教育開発・支援センター長 小澤 康裕

2023年度の全国私立大学FD連携フォーラム（JPFF）総会ならびにシンポジウムが、2023年6月17日（土）に、立教大学池袋キャンパスにて開催されました。今年度は、新型コロナウイルス感染症による各種制限について全国的に緩和されたことを受けて、3年ぶりに対面形式、そしてシンポジウムでは初めてオンラインも交えたハイブリッド形式にて実施いたしました。その一方で、対面での開催にあたりまして、加盟校の皆様には対面にてご出席いただく人数の調整をいただく心苦しいお願いを申し上げます。皆様にご理解をいただきましたこと、あらためて御礼申し上げます。

総会では、代表幹事校の立教大学として私が司会を担当し、2022年度の活動・決算報告を行いました。その後、2023年度から代表幹事校を引き継ぐ龍谷大学学修支援・教育開発センターの出羽孝行センター長の進行により、2023年度の活動計画とその概要、年間スケジュール、予算等について報告と審議が行われました。またこの総会において、2023年度及び2024年度の体制についても紹介があり、2023年度東日本地域担当幹事校を務める芝浦工業大学から、教育イノベーション推進センターの榎原暢久教授にご挨拶をいただきました。

総会に引き続き開催されたシンポジウムでは「これまでのFDとこれからのFD—2040年代を見据えた課題と展望—」をテーマとして掲げました。今年度のテーマは、18歳人口の減少、グローバル化、AIやDXの進展といった大学を取り巻く環境の変化や、ポストコロナ時代への移行という背景を踏まえ、FDの現在地を確認するとともに、未来に向けた課題と展望について皆様とともに考える機会としたいとの趣旨、そして本フォーラムが設立15周年を迎えたことから原点に立ち返ることを記念して設定いたしました。

立教大学の山下王世副総長（教学担当）による会場校の挨拶の後、はじめに佐藤浩章先生（大阪大学）より「これまでのFDとこれからのFD —FDの推進と実践に向けて—」と題した基調講演をいただきました。FDに関する基礎的な概念および発展の過程、COVID-19やChatGPTのインパクトを踏まえた授業や大学教員の変容、そしてこれからのFDの展望や未来像について、国際的視点も含めた最新の研究成果とFDerとしての豊富なご経験に裏打ちされた深いご見

識に基づいたお話をいただきました。

次に、事例報告として東西のJPFF加盟校より先進的なFDの推進と実践に向けて取り組まれている中央大学および立命館大学からご報告をいただきました。まず、中央大学の澁川幸加先生から「学びの時空間の再構築とこれからの授業デザイン」と題してご報告をいただきました。反転授業に関する研究者でもある澁川先生からは、JPFFホームページでもご紹介いただいている冊子『これからの授業デザイン・実践ハンドブック』の開発の経緯やプロセス、これからの授業デザインの展望などについてのご報告とともに、その基盤となる組織として「中央大学教育力研究開発機構」のご説明もいただきました。次に、立命館大学の沖裕貴先生から「コロナ禍で得られたFDの教訓をこれからの教育・学習にどう活かすか？—立命館大学の教育DXの展望—」と題してご報告をいただきました。長年にわたりJPFFの運営にもご尽力をいただいた沖先生からは、コロナ禍で得られたFDの教訓について、学生アンケートによる具体的な数値データに基づいてご説明いただくとともに、その教訓を今後活用するための先進的な取り組み「立命館大学の教育DXの展望」のなかの一つの事例として「教育開発DXピッチ」をご紹介いただきました。

これらの基調講演と事例報告を受けて、3名の講師とともに私も加わりパネルディスカッションを行いました。参加者の皆さまからは教員・職員問わず活発な質問が出され、それらに対する講師の方々コメントも大変示唆に富んだものであり、非常に有意義な時間となりました。



シンポジウム「基調講演」



シンポジウム「パネルディスカッション」

そしてシンポジウムの締めくくりとして、2023年度代表幹事校である龍谷大学学修支援・教育開発センターの出羽センター長より閉会の挨拶があり、シンポジウムは盛会のうちに終えることができました。

今回のシンポジウムには、対面・オンラインのハイブリッド開催により37大学から104名の方々にご参加いただきま

した。昨年度に引き続き例年の倍以上の方にご参加いただき感謝申し上げます。参加者からは「勉強になりました。次、やるべきことがわかったような気がします」（教員）、「コロナ禍によるICTの普及やChatGPTの登場により、大学教育現場においても大きな転換期を迎えているなか、これからのFDを考えていく上で示唆に富んだ内容でした」（職員）等の声が寄せられました。

最後に、ご登壇いただきました佐藤先生、澁川先生、沖先生におかれましてはご多忙のなかにもかかわらず、お引き受けいただきましたことにあらためて御礼申し上げます。今回のシンポジウムが、皆様の大学におけるこれまでのFDの成果を踏まえつつ、ポストコロナや生成AIの登場を受けたこれからのFDの出発点なる機会としていただけますと幸いです。そして、16年目となる本フォーラムがより連携を深め、学生を主体的学習者に育て、私立大学の教育の質を保証し、高等教育全体の発展に寄与していくことを期待しております。

## シンポジウム次第

### ◆ 開会挨拶

山下 王世（立教大学 副総長/教学担当・文学部教授）

### ◆ 基調講演

「これまでのFDとこれからのFD —FDの推進と実践に向けて—」

佐藤 浩章 氏（大阪大学 国際共創大学院学位プログラム推進機構 教授）

### ◆ 事例報告

「FDの推進と実践に向けて—JPFF加盟校からの事例報告—」

・事例報告Ⅰ 中央大学「学びの時空間の再構築とこれからの授業デザイン」

澁川 幸加 氏（中央大学 教育力研究開発機構・専任研究員/文学部特任助教）

・事例報告Ⅱ 立命館大学「コロナ禍で得られたFDの教訓をこれからの教育・学習にどう活かすか？

—立命館大学の教育DXの展望—」

沖 裕貴 氏（立命館大学 教育開発推進機構 教授）

### ◆ パネルディスカッション

テーマ：『これまでのFDとこれからのFD —2040年代を見据えた課題と展望—』

登壇者：

佐藤 浩章 氏（大阪大学 国際共創大学院学位プログラム推進機構 教授）

澁川 幸加 氏（中央大学 教育力研究開発機構・専任研究員/文学部特任助教）

沖 裕貴 氏（立命館大学 教育開発推進機構 教授）

小澤 康裕（立教大学 大学教育開発・支援センター長/経済学部准教授）

### ◆ 閉会挨拶

出羽 孝行（龍谷大学 学修支援・教育開発センター長/文学部教授）

### ◆ 司会

佐々木 直樹（立教大学 大学教育開発・支援センター副センター長/理学部教授）

## 2023年度懇談会企画 開催

2024年1月25日（木）に、JPFF加盟校から52名の方に参加いただき、第13回懇談会がオンラインで開催されました。この懇談会は各大学におけるFD活動の取り組みの改善・発展の一助とすることを目的としています。当日は事前に設定した3つのテーマごとに4～5名のグループに分かれ各大学における課題やグッド・プラクティスを持ち寄り、オンラインホワイトボードを活用しながら課題や改善策についても議論しました。後半には、他グループのオンラインホワイトボードを見ながらのグループディスカッションを行い、最後に全体での質疑応答を行い情報共有を図りました。

### 【実施概要】

日時：2024年1月25日（木）14：00～16：00

実施方法：オンライン開催

### 【グループディスカッションのまとめ】

#### テーマA：教学IRの推進について

教学マネジメントの取り組みにおいて、教学IRの推進が必須といっても過言ではありませんが、大学ごとに取り組みの状況は異なります。実際の現場においては、どのような体制を構築し、どのようなデータを収集しているのでしょうか。また、分析した各種のデータを用いて、どのように教育改善に活かすことができるのでしょうか。

本テーマでは、教学IRにおける各大学の実施体制をはじめ、収集するデータの種類や内容、分析や可視化による実際に教育改善につながった事例や、業務を進めるうえでの課題等を共有し、更なる教学IRの推進策や課題解決の方策についてグループで議論しました。

#### テーマB：探究学習について

新学習指導要領のもと、探究学習を経験した高校生が2025



龍谷大学 出羽 孝行 教授

JPFF代表幹事校・地域担当幹事校（龍谷大学・芝浦工業大学）

年度から大学に入学してきます。

近年は、大学においてもアクティブ・ラーニングやPBLなどが学問分野を問わず行われていますが大学として探究学習をどのように発展させていく必要があるのでしょうか。

本テーマでは、高大の学びの接続をはじめ、各大学におけるアクティブ・ラーニングやPBLの事例を共有し、探究学習を経験してきた高校生に対してどのような授業を展開していくことが求められるのか、どのような学修サポート体制を構築することが望ましいのか等についてグループで議論しました。

#### テーマC：オンラインやICTを活用した授業について

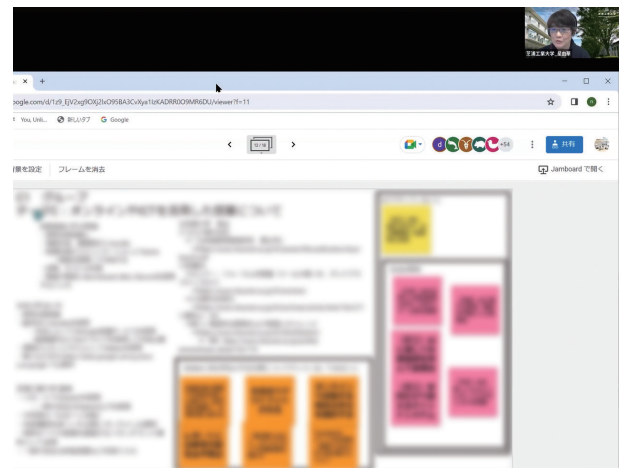
2020年度以降、新型コロナウイルスの感染拡大により、オンライン授業が各大学で実施されました。2023年5月には新型コロナウイルスが第5類感染症に分類され、多くの大学において、ほとんどの授業が対面授業に戻りました。

一方で、一部の授業においては、オンデマンドを中心としたオンライン授業を継続している事例があります。また、アフターコロナにおけるオンライン授業の在り方については、文部科学省からもガイドラインが示され、その中ではハイブリッド型の授業が推奨されています。

本テーマでは、各大学におけるオンライン授業の実態や課題、対面授業におけるオンラインやICTを活用した授業等のグッド・プラクティスを共有し、今後の授業改善に向けてグループで議論しました。

2回のグループディスカッションののち、オンラインホワイトボードを確認しながら全体で質疑応答を実施しました。

Aグループのディスカッションに対しては、第4期の認証評



全体での質疑応答

価において内部質保証への学生参画の状況も対象とすることから、教学IRを推進する際の学生の参画方法について具体例を教えてほしいとの質問がありました。このことへの回答として、発表者が担当する授業において学生が教学IRに関するリサーチクエストを作成するという事例が報告されました。この取り組みによって、学生が大学教育の課題や学習成果の可視化に関心を持ち、それを問いとして表現できるようになることが示唆されました。その際、単なる形式的な学生参加であれば形骸化してしまうため学生が実際に関わることの重要性が強調されました。今後の展開においても、作られたシステムの中に学生が入ってくるのではなく、最初から学生が入っている形でサイクルを回すようになることが理想であると報告いただきました。

Bグループでは、教職課程における附属中学・高校との連携のプロジェクトについて質問がありました。このプロジェクト



グループディスカッション（オンラインホワイトボードを活用）

トは探究活動の難しさの一つである「問いを立てる」ところで教職志望の学生がサポートとして入って、高校生の学びを手伝うという取り組みだそうです。これによって学生が中学・高校の授業にサポーターとして参加し、実際の教育現場での経験を積むことができるということです。こうした連携活動を通じて、教職志望の学生が実際の学校現場での教育活動を体験し、学びを深めることが期待されているということです。

Cグループでは、全ての授業の録画とオンデマンド提供に関する取り組みについて質問がありました。質問を受けた大学では、授業の録画についてコロナ禍以前から推奨されており、現在はオンライン授業が行われる中で特に重要視されているということです。具体的には、多くの教室にカメラが設置され、教員が授業を行う際にはZoomを使用して録画されるそうです。これらの録画はLMSにアップロードされ、学生に対してオンデマンドで提供され、学生は自身の進捗に合わせて学習することが可能になっているということです。

懇談会企画では、参加者同士の距離が近く、いずれのグループも大変活発な議論が交わされていたようでした。この企画で共有された他大学での取り組みや課題を参考にして、各大学において更なる教育改善や教育の質の向上につなげていただければと思います。



芝浦工業大学 榎原 暢久 教授

## 幹事校・会員校ミーティング報告

### 1. 2024年度総会・シンポジウム 開催日程について

2024年度の総会・シンポジウムを2024年6月15日（土）13：00より龍谷大学 深草キャンパスで開催することが報告されました。総会に先立ち、幹事会を12：00より開催する予定です。なお、実施形態は【対面を基本としながら、シンポジウムを配信する一部ハイブリッド形式】で詳細は3月末日までに改めて通知します。

### 2. 2024年度 実践的FDプログラム オンデマンド講義サービスの運用について

実践的FDプログラム オンデマンド講義サービスの運用や申し込み方法について説明がありました。

### 3. 事務局（メディア総研）との契約更新について

全国私立大学FD連携フォーラムの事務局業務を委託している「メディア総研株式会社」との契約更新について説明がありました。

## 入会のご案内



全国私立大学FD連携フォーラムは、全国の中規模以上(学生数8,000名以上)の私立大学が連携し、全国の高等教育の質の向上を目指し、活動しています。本フォーラムでは、高等教育の質の向上に資するため、加盟校間での情報共有や意見交換を促進しています。

ウェブサイトでは取り組みの概要や、加盟校のFD活動についてご紹介しております。詳しくは下記ページをご覧ください。

URL: <http://www.fd-forum.org/fd-forum/>

入会を希望される場合には、ウェブサイト「入会のご案内」から「入会届」をダウンロードの上、事務局まで郵送、メール、FAXのいずれかでお送りください。

※フォーラム運営に係る費用は、会員校の年会費で賄っております。  
(年会費:5万円(2024年3月現在))

※入会に関するご質問がございましたら、事務局までお問い合わせください。

## 実践的FDプログラムのご案内

実践的FDプログラムとは、教員が自らの授業を専門分野と教育学の観点から省察することができる知識、技能、態度、特にアクティブラーニングを実践する能力を修得する研修プログラムです。

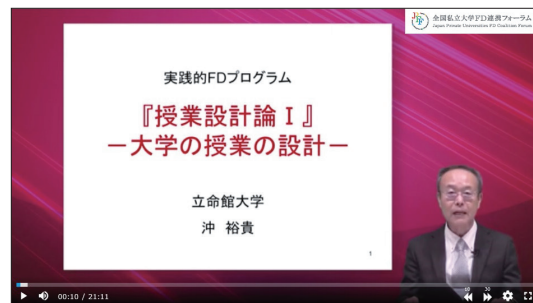
本プログラムは、教員の4つのアカデミック・プラクティス(教育、研究、社会貢献、管理運営)に対して、

- ① 教育学をはじめとした系統的な理論のオンデマンド講義
- ② 授業技術やコミュニケーションスキルを育成するワークショップ
- ③ 個々の教員ニーズに応える日常的な教育コンサルテーション

から構成されています。

私立大学には、クラス規模の大きさ、教員の持ちコマ数の多さ、学生の学力と学習意欲の多様性など、多くの困難な教育条件が存在します。たとえば、各大学では、新任教員研修において本プログラムを利用することを通して、大学教員に求められる教育力量と職能を育成し、大学教育の質を保証することが可能となります。

各大学の対象者や実施目的の違いによって、講義(オンデマンド)や講座(ワークショップ)等を選択し、様々なプログラムを作ることが出来ます。詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。



### JPF會員校

[http://www.fd-forum.org/fd-forum/html/fd\\_application.html](http://www.fd-forum.org/fd-forum/html/fd_application.html)

### JPF非會員校

[http://www.ritsumeai.ac.jp/itl/assets/file/campus/vod\\_annai\\_hikameiko.pdf](http://www.ritsumeai.ac.jp/itl/assets/file/campus/vod_annai_hikameiko.pdf)

### 利用申込について

利用期間は最長1年間(当該年度内)となります。(【上半期受付期間】2月1日～4月30日 【下半期受付期間】9月1日～9月30日)  
上記のウェブサイトより「利用申込書」ならびに「受講者情報登録用紙」をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、受付に記載のメールアドレスまでお送りください。

### 受付

立命館大学 (事務局:教育・学修支援センター 担当部署:教学推進課)

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL:075-465-8304 FAX:075-465-8311 e-mail:fd71cer@st.ritsumeai.ac.jp

## 全国私立大学FD連携フォーラム事務局

メディア総研株式会社 〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-10-1-9F TEL:03-6206-3030 FAX:03-6435-0801 e-mail:jpff@mda.ne.jp